

日本文化体験講座開催

12月10日(土)、鈴鹿市文化会館3階の和室と茶室で、日本文化体験講座を行いました。

和服を着て、お抹茶席を体験すると共に、礼やマナー、日本人の心まで、理解してもらえることを目的に開催しました。

参加者は、女性8名、男性2名の計10名。国籍は、中国、ペルー、ロシア、アメリカの4カ国でした。

様々な国の方々が一堂に会し、和服を身にまとうと、それはゴージャスで、しかし思ったよりもみなさん板に着いていて、とても素敵でした！

以下はそのレポートです。

《着物の着付け》

小林豊子着物学院の副院長 橋本豊梢先生とスタッフ6名のみなさんに、着付けをお願いしました。着物は全て、小林豊子きもの学院さんにお借りし、また足りない分は、橋本先生が、ご自身の着物を持って来て下さいました。

参加者は、それぞれに似合う色目、柄などを選び、早速、着付けに入ります。



ずん胴になるように、持参したタオルをウエストにぐるぐる巻いて、ひもでギュッと締めます。背筋が伸び、気も引き締まっていきますネ。早く着付けの終わったアメリカ人男性ふたりは、

お辞儀の練習をしていました。

ふたり共、背が高いので、着物の裾が少々短かったですネ。



着付け終わったら、和室
や中庭で、記念撮影！
お国のご両親に、見せて
あげたいですネ！
「こんな機会は滅多にない
ことなので、嬉しいです。」と、みなさん、とても喜んでいらっしゃいました。



アメリカのハンターさん(左)、レスリーさん(中央)、とマークさん(右)



ペルーのウエンテイさん(左)とアレシャンドリーナさん(右)親子



ロシアのエカテリナさん



中国の馬(マ)さん(左)と関(カン)さん(右)



中国の白(ハク)さんと干(ユ)さん



《茶室に入る際のマナー》

着物を着たら、次は「お抹茶席」体験です。

ここからは、表千家の村越先生に、手ほどきをお願いしました。

お茶の世界は、大変奥が深く、このような限られた時間で全てを伝えるには限界がありますが、村越先生は、それでも“茶の心”が伝わるように、形だけではなく、その裏に込められた思いまで伝える努力をして下さいました。

*歩き方

まずは、歩き方から説明します。

出足は「表」と「裏」で違うそうです。表千家は左足から、裏千家は右足から出るとのこと。そして、歩く時は、すり足で歩く。

畳のへりは踏まない。が、すり足でへりを切るのは良いそうです。

畳のへりは、「お父さん、お母さんの頭です。」とおっしゃっていました。

*座り方・お辞儀の仕方

お茶室に入る時は、全員、一礼して入り、正客さんと次客さんだけは、床の間の掛け軸とお花を拝見します。

お茶室に入る前に、和室で事前に練習をしました。



←先生の手前に置かれた扇子は、「末広」と呼ばれ、昔の刀になぞらえ、武器は置く、という意味だそうです。



座る時は、隣の人にお尻を向けないように廻り込み、裾を折り込んで座ります。

正座をしたら、膝と膝の間にげんこつが一つ入るくらいの間隙を空け、後ろで足の親指を重ね合わせるとラクですよ、という説明に、参加者のみなさんは、正座に挑戦です。



スタッフを床の間に見立てて、掛け軸の拝見の仕方、お花の見方の練習をします。「わからなくても、とにかくじっと見て、何でも感じることを感じて下さい。」と先生はおっしゃいましたが、さて、いざ茶室ではどうなりますか…？



他に、懐紙の使い方、和菓子のいただき方、隣の人に「お先に頂戴します。」とお辞儀をしてから、お茶をいただくことなど、教わりました。

「辛かったら、足を崩してもいいですよ。」と言われても、頑張って正座を続けるみなさんでした♪

《お抹茶席》

さて、いよいよ本番です。まずは、和室から隣の茶室に移動します。



玄関では、前の人の履き物を、その後ろの人が直して、順次上がっていきます。



履き物を、脇に寄せてから部屋に上がる。これは、日常生活でも応用できることですね。

こうした行為のひとつひとつに、日本の文化、日本人の心が感じられます。

はたしてみなさんは、どこまで感じてくれるのでしょうか？

緊張感を伴いながら、いよいよお抹茶席へ。

↑下駄がなかったので、コンバースを履いて移動していますネ！



←まずは正客さんが、茶室に入り、床の間を拝見。
→その後で、次客さんが、同じように、床の間とお花を拝見します。
「わからなくとも、感じるままに、感じて下さい。」と練習の時に言われましたが、さて、おふたりは、何を感じられたのでしょうか？
掛け軸の漢字はなんて書いてあるのかな？



↑3人目の人からは、そのまま次客さんの横に座っていきます。席に着くまでは、先生から教わったとおり、すり足で、畳のへりは切るようにして歩いていましたネ。みなさん、出来がよろしいです！



練習とおり、うまく着席までできたら、いよいよお抹茶をいただきます。まずは、先生がお茶を点てるのを、心を澄ませて静かに見ます。

村越先生によると、お茶の点て方を見れば、その人のその日の心理状態がすぐにわかるそうです。

お茶を点てる人、それを受ける人、互いに相手を気遣いながら、同じ時間と空間を共有するのですね。

次に、主菓子をいただきます。胸元から懐紙を取り出し、中にある楊枝で、おまんじゅうを懐紙にのせます。懐紙の上で、おまんじゅうをいただくのは、少し難しかったかもしれません。



いよいよ、お抹茶をいただきます。抹茶茶碗の持ち方、回し方とその意味を説明しました。



みなさんが、お茶を味わっている間に村越先生は、掛け軸に書いてある文字の説明をして下さいました。

「喫茶去」(きっさこ) –これは、「どうぞ、ごゆっくりなさって下さい。」という意味だそうです。

今日は、外国のお客様で、茶席は初めての方ばかりなので、この字を選んだそうです。

そして、お花は、お茶会を催す時の季節に合った花を飾るそうです。

掛け軸と花を見れば、今日はどんなお茶会なのかすぐにわかる、と先生はおっしゃっていました。

この日は、白い椿の花が飾られていました。



次に、先生は、茶杓に書いてある文字の説明をされました。「一会」と書いてありました。

これは、「一期一会」という意味です。「わび・さび」と同様、理解するのは、なかなか難しい言葉ではありますが、みなさん、ちゃんと理解ができた様子でした。

みなさんからの質問では、お花は毎月変わるの？掛け軸には、他にどのような文字があるの？などが挙がりました。お花は、季節によって、掛け軸の言葉は、例えば年配の方、先輩方がいらっしゃる時は「無事」などという言葉を選ぶそうです。うなづけますね。

そして、最後に先生は、「今日、このような機会が持てて、世界各国のみなさんが、このようにお茶を体験して下さったことが、本当に嬉しい。これこそが本当に一期一会。この出会いに感謝します。」とおっしゃり、お辞儀をされました。

参加者も全員、深くお辞儀をして、先生に感謝をしました。

目標としていた日本の文化、日本人の心が、ちゃんと伝わったかな、と思える瞬間でした。

村越先生、橋本先生、スタッフのみなさん、本当にありがとうございました。

そして、参加者のみなさん、お疲れ様でした。今日のこの日を忘れないで下さいネ！（↓記念写真）



～お疲れ様でした～

